



神の木公園

写真部活動通信



Vol. 27

厄介者！？ 後編

前回に引き続き、カラスの紹介をします。

さて、厄介者と思われがちなカラスですが、ヒトと同じく子を産み、育て、やがてその子が成熟し、また次世代へと命をつなぐ営みがあります。ヒトと違うのは、子を産む時期がほぼ定まっていることです。そしてその時期は3月ごろから始まります。3月の終わりごろになると、枝が塊になって木にくっついている様子が見られます。ほぼ間違いなく巣を作っている最中です。この時期に巣を除去できるとカラスは産卵を諦める傾向が強いです。

もちろん、カラスも子孫を残すことに必死ですから、巣をとろうとする様子を見ると、襲ってきま。それでも卵を産み落としてから巣を撤去するよりか、はるかに楽です。時期が進み4月に入ると、巣に卵がある様子が見られます。この時期になると、巣の周囲をカラスが飛び回り、警戒を強くします。我が子を守ろうとするのは、どんな生き物でも当然しますよね。また、卵の扱いについても鳥獣保護管理法により、許可なく、捕獲したり、傷つけたり、処分したりすることは禁止されています。ヒナはもちろんのこと、卵も対象となります。やむを得ず、処分する場合は事前に横浜市長への許可申請が必要となりますので、3月のうちに作られた巣をいかに撤去できるかが重要というわけです。

神の木公園でも3月に巣を撤去しています。カラスが巣を離れる日中のわずかな時間を狙って撤去作業を行いました。もちろん高所での作業ですので、短時間で終わらせるということはなかなか難しく、それなりに時間がかかります。撤去作業終盤になると、戻ってきたカラスが頭上を旋回し始めます。もちろんヘルメットをかぶっていますが、恐怖との戦いです。今季の撤去作業も無事ケガもなく終了しました。

カラスも自分たちの営みをつなぐことに必死です。むやみやたらにヒトを攻撃しているわけではなく、次の世代を脅かす恐れのある存在、つまり巣やヒナに近づく私たちに威嚇、攻撃します。私たちはそんなカラスからの威嚇、攻撃に恐怖し、カラスをやっつけようとし、当然と言えば当然な流れですが、両者には両者の行動原理があるわけです。「どうすれば、お互いに恐れあうことなく、生活できるのか。」が課題になります。

では具体的に「どうすればいいのか？」が気になりますよね。前述でもお伝えした通り、カラスが強い警戒心を持つ時期(特に4~6月)は限られています。その時期に卵やヒナを脅かす存在にならないようにします。つまり、巣がある場所には近づかない、ヒナの声(聞きなれたカーカーという鳴き声ではなく、にごったビービーという鳴き声です。ヒナの声だとは初めて聞く人でもわかると思います。)がする場所は迂回する、どうしても通らざるを得ない時には傘をさす(背後からの攻撃を防げます。)という方法をとってください。間違っても傘を振り回して応戦したり、大声をあげて威嚇したりしないでください。刺激をしないということが大切です。

生活する距離感が近いからこそ、お互いの理解を深めることが重要なかもしれません。

カラスはヒトを理解できないかもしれませんが、私たちにはそれができます。カラスの習性を知り、良い距離感をとることで、私たちがより快適な生活が送れることを信じています。



緑とコミュニティーグループ 神の木公園
〒221-0011 神奈川県横浜市神奈川区神之木台13
TEL 045-421-7883
WEB <https://midocomi.com/kaminokipark.html>



blog



X (旧twitter)



Park娘 かみのきちゃん